

和歌山県串本町から得られた本州初記録のホシヒレグロハタ

大西 遼¹

Author & Article Info

¹ 串本海中公園センター (東牟婁郡串本町)

onishi@kushimoto.co.jp

Received 11 July 2024

Revised 16 July 2024

Accepted 16 July 2024

Published 16 July 2024

DOI 10.34583/ichthy.46.0_21

Ryo Onishi. 2024. First Honshu record of *Epinephelus corallicola* (Epinephelidae) from Wakayama Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 46: 21–24.

Abstract

A single specimen (46.4 mm SL) of Coral Grouper, *Epinephelus corallicola* (Valenciennes, 1828) (Epinephelidae) was collected from Wakayama Prefecture, Japan. In Japanese waters, the species has previously been recorded from south of Kochi Prefecture. The Wakayama specimen represents the northernmost distributional record and the first record from Honshu, Japan for the species.

紀伊半島の南端に位置する和歌山県串本町は温帯域に位置するが、黒潮の影響を強く受けるため、多くの熱帯性魚類が加入および定着することが知られている (福田・小寺, 2019; 大西, 2024)。近年においても、串本海域からは本県初記録となる熱帯性魚類の報告が複数あり (例えば、松尾・國島, 2021; 堺・國島, 2023; 大西・吉田, 2024)、本県における熱帯性魚類の出現動向を把握する上で重要な海域である。

ハタ科アカハタ属 (Epinephelidae: *Epinephelus*) のホシヒレグロハタ *Epinephelus corallicola* (Valenciennes, 1828) は、日本からオーストラリア北西部にかけての西太平洋域に広く分布しており (Randall and Heemstra, 1991; Heemstra and Randall, 1993; Heemstra et al., 2011; 瀬能, 2013)、日本国内では高知県以南から散発的に記録されている (橘・遠藤, 2023)。本種は成長に伴い色彩が変化することが知られており、幼稚魚 (体長 30–60 mm) では頭部、体側、および各鱗に瞳孔大の白色斑が散在し、頭部と体側の白色斑が濃褐色に縁どられることで同属他種と区別される (Randall

and Heemstra, 1991; Heemstra and Randall, 1993; Heemstra et al., 2011; 橘・遠藤, 2023)。

2023年11月29日に和歌山県串本町の串本海中公園センター前の錆浦海岸で1個体のホシヒレグロハタの幼魚が採集された。本標本は本種の本州からの初記録であり、分布の北限を更新する記録であるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は、Randall and Heemstra (1991) に従った。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm の精度で測定した。標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した。本標本は 2024 年 3 月 9 日まで串本海中公園センターで飼育し、死亡後は 10% ホルマリン溶液で固定し、70% エタノール溶液に置換して保存した。生鮮時および生時の体色の記載は固定前に撮影されたカラー写真 (Fig. 1) に基づいて記載した。本報告に用いた標本 (WMNH-PIS13981) は和歌山県立自然博物館 (WMNH) に保管されている。

Epinephelus corallicola (Valenciennes, 1828)

ホシヒレグロハタ

(Fig. 1)

標本 WMNH-PIS13981, 46.4 mm SL (採集時は約 40.0 mm SL)、和歌山県東牟婁郡串本町有田 1157 串本海中公園センター 錆浦海岸 (33°28'46"N, 135°44'34"E)、水深 0.1 m、タモ網、2023 年 11 月 29 日、大西 遼。

記載 背鰭条数 XI, 15; 臀鰭条数 III, 8; 胸鰭条数 17; 腹鰭条数 I, 5; 縦列鱗数 92; 側線有孔鱗数 60; 鰓耙数 8+14=22。体長に対する体各部の割合 (%) : 体高 32.1; 体幅 13.7; 頭長 41.8; 吻長 7.9; 眼窩径 10.9; 眼隔域幅 6.4; 眼下骨高 2.1; 上顎長 17.4; 尾柄高 10.9; 尾柄長 14.9; 背鰭前長 40.9; 臀鰭前長 66.8; 腹鰭前長 39.2; 背鰭基底長 56.0; 背鰭第 1 棘長 6.8; 背鰭第 2 棘長 11.4; 背鰭第 3 棘長 13.3; 背鰭第 4 棘長 14.4; 背鰭第 5 棘長 14.2; 背鰭第 6 棘長 13.7; 背鰭第 7 棘長 13.1; 背鰭第 8 棘長 13.3; 背鰭第 9 棘長 13.7; 背鰭第 10 棘長 14.0; 背鰭第 11 棘長 14.2; 背

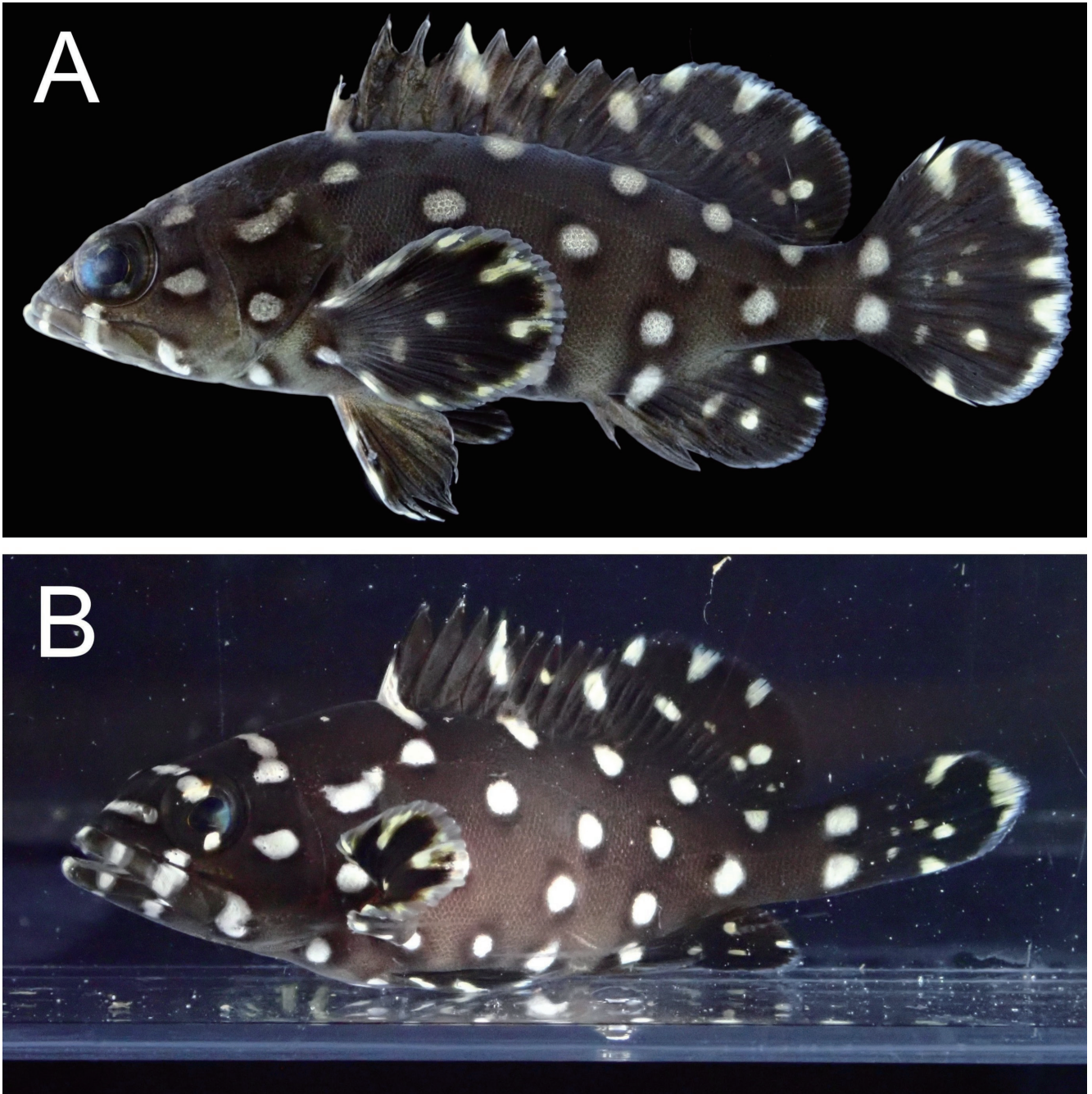


Fig. 1. Fresh specimen (A) and live individual taken on 9 Mar. 2024 (B) of *Epinephelus corallicola* (WMNH-PIS13981, 46.4 mm SL) from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan.

鰭最長軟条長 17.2；臀鰭基底長 18.9；臀鰭第 1 棘長 7.5；臀鰭第 2 棘長 15.0；臀鰭第 3 棘長 13.1；臀鰭最長軟条長 20.4；尾鰭長 24.7；胸鰭長 27.8；腹鰭棘長 12.2；腹鰭長 19.6.

体は前後方向に長い楕円形で側扁し、尾柄部は強く側扁する。体背縁は吻端から背鰭起部にかけて上昇し、背鰭起部から尾鰭基底部にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎の先端から腹鰭起部にかけて緩やかに下降し、腹鰭起部から臀鰭起部にかけて体軸と平行にはしり、臀鰭起部から尾鰭基底部にかけて緩やかに上昇する。体高はやや低く、背鰭第 1 棘基部付近で最大となる。眼は正円形で、瞳孔はやや前後方向に長い楕円形を呈する。鼻孔は 2 対で、前鼻孔と後鼻孔は互いに近接する。口は端位で、吻端はやや尖

り、下顎が上顎よりも僅かに突出する。両顎には小円錐歯が並ぶ。口蓋骨歯がある。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状で、前鰓蓋骨下縁と主鰓蓋骨後縁は円滑である。肛門は背鰭第 10 棘基部直下に位置する。体側鱗は細かな櫛鱗で、両唇と胸鰭腋部は無鱗。側線は完全で、主鰓蓋骨上端から尾鰭基底部にかけて体背縁と平行にはしる。背鰭第 1 棘基部は胸鰭基部直上のやや後方に位置し、背鰭軟条部の縁辺は丸みを帯びる。臀鰭棘は第 2 棘が最長で、臀鰭軟条部の縁辺は丸みを帯びる。胸鰭後縁は丸みを帯び、その後端は背鰭第 10 棘直下に位置する。腹鰭起部は背鰭第 2 棘直下に位置する（背鰭第 2 棘は折損）。尾鰭は円形で、後縁は丸みを帯びる。

色彩 生鮮時および生時の色彩 (Fig. 1) — 体の地色は

灰色みを帯びた褐色で、腹側で色味がやや薄くなる。頭部と体側には瞳孔大のやや灰色みがかかった白色斑が散在し、いずれも濃褐色の太い縁取りをもつ。体側の白色斑は円形であるが、頭部ではほとんどが不定形である。両眼間および頭頂部の白色斑はバンド状を呈する。各鱗の地色は灰色みを帯びた褐色で、やや灰色みがかかった白色斑が散在する。各鱗の白色斑はほとんどが頭部と体側の白色斑よりも小さい。背鱗と臀鱗には体側から続く白色斑があり、いずれも濃褐色の太い縁取りをもつ。背鱗と胸鱗の白色斑は一部やや黄色みを帯びる。尾鱗基部には瞳孔大の白色斑があり、濃褐色の太い縁取りをもつ。各鱗軟条部の縁辺は白く縁取られ、一部白色斑と連続する。

分布 日本、台湾南部からフィリピン、パプアニューギニア、ソロモン諸島、オーストラリア北部までの西太平洋に分布し (Randall and Heemstra, 1991; Heemstra and Randall, 1993; Heemstra et al., 2011; 瀬能, 2013), 日本国内では、高知県、宮崎県日向灘、鹿児島県薩摩半島、および琉球列島 (奄美大島、徳之島、沖縄島、西表島) から記録されている (三浦, 2012; 瀬能, 2013; 吉郷, 2014; Iwatsuki et al., 2017; Nakae et al., 2018; Mochida and Motomura, 2018; 桜井, 2019; 下瀬, 2021; 中村, 2022; 橘・遠藤, 2023)。本研究により新たに和歌山県串本町からも記録された。

備考 和歌山県産の標本は、背鱗棘数が 11、臀鱗が 3 棘 8 軟条であること、口蓋骨歯があること、頭部と体側に瞳孔大の白色斑が散在し、いずれも濃褐色の太い縁取りをもつことなどの特徴が Randall and Heemstra (1991) や橘・遠藤 (2023) の示したホシヒレグロハタ *E. corallicola* の特徴に一致したため、本種と同定された。

本種の分布記録は「分布」の項に示したとおりであり、これまで日本国内における分布の北限は高知県大月町であった (橘・遠藤, 2023)。和歌山県串本町から得られた標本は、本種の分布の北限を更新する記録であるとともに、本州からの標本に基づく初めての記録となる。

本種は、泥底の岩礁域やサンゴ礁域、および河口の汽水域などのごく浅い海域に生息することが知られており (Randall and Heemstra, 1991; Heemstra and Randall, 1993; Heemstra et al., 2011; 瀬能, 2013; 橘・遠藤, 2023), 和歌山県産の標本は、サンゴ礁混じりの海岸で干潮時に水深 0.1 m の転石下で採集された。本標本は採集後、串本海中公園センターで約 3 か月間飼育された。飼育水槽には自然海水を常時注水し、水温は 15.8–19.1°C の範囲で推移した。これまで本種の分布の北限であった高知県では、採集された標本の体長と採集月から本種が越冬している可能性があると報告されている (橘・遠藤, 2023)。串本海中公園センター周辺海域では、例年 2 月に表面水温 16°C 前後と最も低下し、そこから 3 月にかけて徐々に上昇することが知られて

いる (中村, 2023)。今回、飼育環境下ではあるが、水温が最も低下する 2 月にも生存していたことから、高知県と同様に和歌山県沿岸でも本種が越冬できる可能性がある。また、本標本は採集時、体長約 40.0 mm の幼魚であった。黒潮流域である串本町沿岸には、本来南方域に分布する熱帯性魚類の卵・仔稚魚が偶発的に輸送されることが知られている (例えば、松尾・國島, 2021; 大西・吉田, 2024)。したがって、本標本は卵・仔稚魚期に南方域から偶発的に輸送されたものであると考えられる。

謝 辞

串本海中公園センターの皆さまには標本の採集と飼育にご協力いただいた。和歌山県立自然博物館の平嶋健太郎氏には標本の登録を行っていただいた。Ichthy 担当編集委員の中村潤平氏と匿名の査読者には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 福田照雄・小寺昌彦. 2019. 海中展望塔に集まる魚 40 年間のまとめ。マリンパビリオン, 8: 1–14. [URL](#)
- Heemstra, P. C., M. Kulbicki, D. A. Pollard, K. L. Rhodes, B. C. Russell and M. A. Samoilys. 2011. *Epinephelus corallicola* (Valenciennes, 1828), pp. 115–117. In Craig, M. T., Y. J. Sadovy de Mitcheson and P. C. Heemstra (eds.) *Groupers of the world. A field and market guide*. NISC, Grahamstown.
- Heemstra, P. C. and J. E. Randall. 1993. *FAO species catalogue. Vol. 16. Groupers of the world (family Serranidae, subfamily Epinephelinae). An annotated and illustrated catalogue of the grouper, rockcod, hind, coral grouper, and lyretail species known to date*. FAO, Rome. vii + 382 pp. + xxxi pls.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka and S. Kimura. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55. [URL](#)
- 松尾 怜・國島大河. 2021. 和歌山県串本町から採集された北限記録のミナミフエダイ *Lutjanus ehrenbergii*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 6: 38–40. [URL](#)
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち。ウェブ企画。与那原. 140 pp.
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80. [URL](#)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361. [URL](#)
- 中村潤平. 2022. ハタ科, pp. 90–103. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之 (編) 薩摩半島沿岸の魚類。一般社団法人鹿児島水圏生物博物館, 枕崎, 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島。
- 中村公一. 2023. 2023 年鯖浦定置観測結果。マリンパビリオン, 53: 6–7. [URL](#)
- 大西 遼. 2024. 串本海中公園センターで記録された魚類。マリンパビリオン, 15: 1–24. [URL](#)
- 大西 遼・吉田朋弘. 2024. 和歌山県串本町から得られた北限記録のヤットゲテンジクダイ。 *Ichthy Natural History of Fishes of Japan*, 40: 62–65. [URL](#)

- Randall, J. E. and P. C. Heemstra. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. *Indo-Pacific Fishes*, 20: 1–332, pls. I–XLI.
- 堺 響暉・國島大河. 2023. 和歌山県串本町から得られた本州初記録のクラカケエビス. *Ichthy Natural History of Fishes of Japan*, 35: 16–19. [URL](#)
- 桜井 雄. 2019. ハタ科 Serranidae (ハタ亜科 Epinephelinae), pp. 84–95. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 207 pp.
- 橘 皆希・遠藤広光. 2023. 高知県と静岡県から得られたハタ科アカハタ属魚類5種の記録. *Ichthy Natural History of Fishes of Japan*, 39: 14–25. [URL](#)
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産淡水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuana*, 9: 1–153. [URL](#)